

新型コロナウイルス感染症の特徴について

1 新型コロナウイルス

新型コロナウイルス(以下、ウイルスと言います。)は粘膜に入り込むことはできますが、健康な皮膚には入り込むことができず表面に付着するだけとされています。物の表面についてのウイルスは時間がたてば壊れてしまいます。ただし、物の種類によっては24時間～72時間くらい感染する力をもつとされています。

手洗いは、たとえ流水だけであったとしても、ウイルスを流すことができるため有効ですし、石けんを使った手洗いはコロナウイルスの膜を壊すことができるので、更に有効です。手洗いの際は、指先、指の間、手首、手のしわ等に汚れが残りやすいとされていますので、これらの部位は特に念入りに洗うことが重要です。また、流水と石けんでの手洗いができない時は、手指消毒用アルコールも同様に脂肪の膜を壊すことによって感染力を失わせることができます。

2 感染経路

一般的には**飛沫感染、接触感染**で感染します。閉鎖した空間で、近距離で多くの人と会話するなどの環境では、咳やくしゃみなどの症状がなくても感染を拡大させるリスクがあるとされています。(WHO = 世界保健機関は、一般に、5分間の会話で1回の咳と同じくらいの飛沫(約3,000個)が飛ぶと報告しています。)

「**飛沫感染**」とは：感染者の飛沫(くしゃみ、咳、つばなど)と一緒にウイルスが放出され、他の方がそのウイルスを口や鼻などから吸い込んで感染することを言います。

「**接触感染**」とは：感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスがつきます。他の方がそれを触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触ることにより粘膜から感染することを言います。WHOは、新型コロナウイルスは、プラスチックの表面では最大72時間、ボール紙では最大24時間生存するなどとしています。

(出典：1、2ともに厚生労働省ホームページ「新型コロナウイルスに関するQ & A (一般の方向け)」)

3 空気感染

ウイルスについて、科学者のグループが飛沫感染で想定されるよりも遠く

まで到達すると指摘していることについて、WHOは「可能性は除外できない」として、新たな証拠に基づいて柔軟に今後の対応を検討していく考えを示しました。

ウイルスの感染経路について令和2年7月6日、世界32か国の239人の科学者らが声明を発表し、せきやくしゃみで飛び散る「飛沫」による感染だけでなく、さらに細かい粒になって遠くまで到達して感染する可能性を指摘しました。

声明ではこの感染経路を「**空気感染**」と呼び、WHOや各国の保健当局などに対して換気の悪い場所や、人が密集した場所での感染リスクが高いとして、これまでの対策を見直すよう求めています。

(出典：NHK特設サイト「新型コロナウイルスの特徴は？」2020年7月8日付記事)

4 若い世代へのリスク

新型コロナウイルス感染症の患者のうち、18歳未満の比較的若い世代は、18歳以上の世代に比べて入院が必要になる割合は大幅に低いものの、入院後に**症状が重くなる割合は大人と同程度**であることが、アメリカCDC(=疾病対策センター)などの分析でわかりました。CDCは「託児所や学校など、子どもが集まる場所での感染対策が重要だ」としています。

(出典：NHK特設サイト「新型コロナウイルスの特徴は？」2020年8月14日付記事)

5 高齢者へのリスク

罹患しても約8割の方は軽症で経過し、治癒する例も多いことが報告されています。一方、重症度は、季節性インフルエンザと比べて死亡リスクが高いことが報告されています。特に、**高齢者や基礎疾患のある方では重症化するリスクが高い**ことも報告されています。

(出典：厚生労働省ホームページ「新型コロナウイルス感染症への対応について(高齢者の皆さまへ)」)

6 無症状の感染者

WHOは、新型コロナウイルスに感染した人の**およそ40%は、無症状の感染者からうつされている**とする見方を明らかにしました。そのうえで、感染が広がっている地域で人との距離を取ることが難しい場合は、マスクを着けるよう呼びかけました。

(出典：NHKニュースサイト2020年6月10日付)